

栃木

宇都宮総局

〒320-0033

宇都宮市本町10-10

☎ 028-622-1761

fax 028-622-1764

mail utsunomiya@asahi.com

足利 ☎ 0284-44-0131

大田原 ☎ 0287-22-2170

日光 ☎ 0288-53-2345

小山 ☎ 0285-28-3833

栃木 ☎ 0282-20-7512

購読・配達のご用は

☎ 0120-33-0843

(7:00~21:00)

広告のご用は

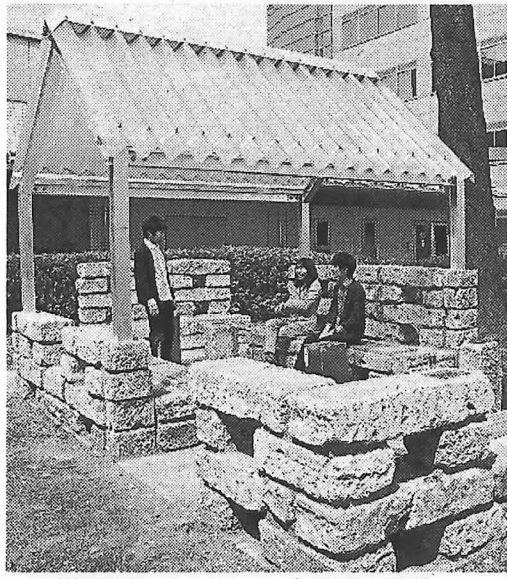
☎ 028-651-6789

折り込みのご用は

☎ 028-660-4222

きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時



震災でがれきとなった大谷石を再利用した休憩所—宇都宮市陽東7丁目

大谷石のがれき 休憩所に再利用

宇太陽東キャンパス

東日本大震災でがれきとなった大谷石を再利用した休憩所が、宇都宮市の宇都宮太陽東キャンパスの一角にお目見えした。大谷石の有効活用について調査していた大学院生らが造った。「街中の新たな景観形成のプロトタイプ(試作品)になれば」との思いも込めた。設計と施工をしたのは、同大学院の安森亮雄・准教授の研究室の学生ら。蔵や塀として使われ、震災で崩れてがれきとなった大谷石約150本を引き取った。

院生、150本引き取り設計・施工

約26平方メートルの敷地に敷き詰め、さらに積んで鉄筋補強した四つのベンチを造った。二つのベンチの上には切り妻屋根を設置し、石の一部を切り取って灰皿にした。「石に角張ったところがなく、大谷石の持つ柔らかく温かみを表現できた」と安森准教授は語る。

同研究室が調査するなかで、震災によって県内では約18万トのがれきが発生し、そのうち、5割近くが大谷石だったことが県のデータで分かった。一方で、老朽化した石蔵の解体による大谷石のがれきも恒常的に発生している。

それらを再利用した休憩所は、街中にある蔵の景観を引き継ぎながら、人の居場所を作り出す「小さな蔵・大きな家具」がテーマだ。安森准教授は「将来的に市街地に広がれば、新たな景観が生まれ、街中の魅力アップにもつながる」と話す。

(田中正一)